

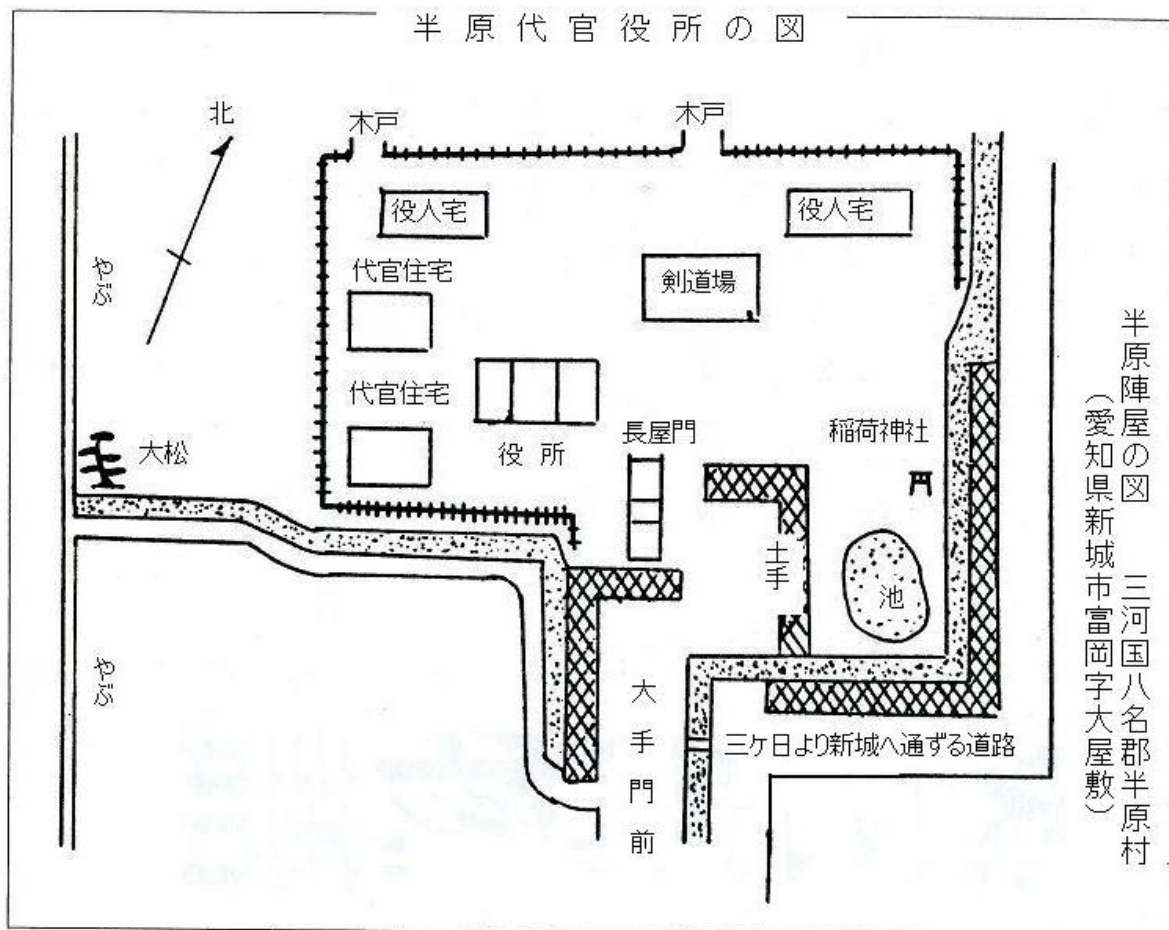
半原藩陣屋・藩邸跡

1871年（明治4年），^{あんべのぶおき} 廃藩置県となり，藩主安部信発は再び東京に戻り，ついで士族も各自の目的によって東京その他へ移住する者，また半原に永住する者もありました。半原藩が成立し藩邸がおかれたのは，わずか3年3ヶ月の短い期間でした。

その後，半原藩邸跡には鈴木伝氏の長男，鈴木栄氏の尽力で石碑が建てられ，半原の治績を後世に伝えています。

- <広さ>
 - 東西 45間 役所 3間×6間
 - 南北 59間
- <役人>
 - 代官 2人 全員で20人ぐらい
 - 手代 2・3人
 - 役人 3・4人 日勤は10人足らず（代官・手代等）
 - 足軽
 - 仲間（ちゅうげん）

<暮らし> 廃藩置県後，禄を失った半原藩士の生活の窮乏はあわれなほどだったという。



がくしゅうかん
藩校 学聚館

岡部藩が半原に移り、1870年(明治3年)5月、藩内の子弟教育の目的で学聚館がくしゅうかんが設立されました。学聚館は天明の頃創設された藩校ですが、所替えによって中絶やすみちされていたのを再興したものです。儒学者、宮原成太が学聚館総裁に、大原泰通が大教授に任せられました。江戸時代は儒学、特に朱子学が重んじられたため、漢学を主に学びました。また、健武館けんぶかんが創立され、剣術教授、倉光継之進を中心として武術の訓練にあたりました。

生徒は、6・7歳より入学を許され、原則として藩士の子弟でしたが、平民も修学志願の者は許可する方針だったとされています。生徒数は約50人ほどでした。しかし、翌1871年(明治4年)、廃藩置県のため廃校となり、わずか1年間存続したに過ぎません。

当時の指導者数

学館：教授1 大助授1 助教2

武館：教授7 助授4 句読1 器械方5 中医師2 小医師2 計25人

今も八名小学校には、学聚館の印の押してある四書五経、文選、史記等の蔵書が保管されている。半原藩は、全体で藩士171戸とあるが、東京、岡部、桜井谷と4ヶ所に分かれていたので、半原にいた者は3分の1ぐらい、住む家もないようなありさまで、落ち着いた教育はできなかった。ここの出身の人たちが後、明治維新以後小学校教員となり、ことに倉光氏のごときは剣術指南として当地方の師弟を教育し、剣道を普及させる要因となった。



当時使われた漢学書

＜東三河の藩校＞

所在藩	校名	設立年	学 科
半原藩	学聚館	1870 明治3	漢学
新城陣屋	有教館	1780 安永9	漢学, 弓, 馬, 槍, 劍, 柔道
吉田藩	時習館	1752 宝暦2	和学, 漢学, 算術, 筆道, 槍 弓, 劍・馬, 柔術, 水泳
田原藩	成章館	1810 文化7	漢学, 槍, 砲, 劍, 馬, 弓, 柔術